

平成30年度第1回下関医療圏地域医療構想調整会議 議事概要

【日時】平成30年10月16日（火）19:00～20:30

【場所】下関市役所新館5階 大会議室

【出席者】出席者名簿のとおり

- 調整会議の取扱促進に向けた県の対応や、平成30年度からの病床機能報告の取扱い等について説明を行った。
- 公的医療機関等について、各医療機関の対応方針を報告し、地域医療構想の実現に向けた対応方針を協議した。
- 第1回高度急性期・急性期専門部会の協議結果の報告を行った。

【議事内容】

1 調整会議の取組促進に係る対応について

県医療政策課から資料1により、国の通知を踏まえた地域医療構想調整会議における対応について説明を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見・質問等なし

2 平成29年度病床機能報告の結果等について

県医療政策課から資料2により、平成29年度病床機能報告の結果等について説明を行うとともに、平成30年度からの病床機能報告において、医療機能を選択する際の参考とするための保険点数による医療機能分類が示された。

（主な意見・質問等）

○ 保険点数による医療機能の選択を必須とするものか。これらの作業は医療機関にとって大変な負担になる。

⇒ 保険点数による分類は、地域医療構想に定める必要病床数の推計方法も踏まえ、医療機能選択の一つの目安として示したもので、各医療機関の自主的な判断により医療機能を選択するというこれまでの取扱いに変更はない。

3 平成30年度第1回高度急性期・急性期専門部会の協議結果について

部会長から資料3により、専門部会の協議内容等を報告した後、公的医療機関等2025プランについて、策定した医療機関から説明を行った。

（主な意見・質問等）

○ 昨年度の中間報告で再編対象とされた4病院について、今後の具体的方針を現状維持としている病院があるなど、500床以上の規模の複数の基幹病院を目指す方向性とずれが生じているが、どのような状況か。また今

後、再編統合ができない場合の対応はどうか。

⇒ 公的医療機関等2025プランについては、現時点、中間報告を踏まえた議論の最中のため、現在の病院の状況を仮に置いたもので、今後の協議を踏まえ、見直していく。

⇒ 中間報告はあくまで中間段階のとりまとめであり、今後の協議の結果、再編統合が難しいという話になれば、調整会議において、それを前提とした違うプランを考えていくことになる。

- 全国の医療の状況や、医師の動向等から危機感を持っており、どこか1つ、可能性がある病院同士での再編統合に、早く動いていく必要がある。
- 山口県の医療費は非常に高く、このままの状況が続けば医療保険制度で対応できなくなるため、医療提供側と行政が一体となり、地域医療構想の実現に向け、本気で取り組む必要がある。

4 下関市の取り組みについて

市保健部から資料4により、地域医療確保計画（仮称）の策定など、今年度の下関市の取り組みについて説明を行った。

（主な意見・質問等）

- 市の取り組みは、この調整会議でどの程度の重みを持つものか。
 - ⇒ 下関市の取組は、地域の自主的な検討を進めるための取組の一つとして、調整会議での議論の深化に活用することになる。
- 外部有識者検討会は下関市のあるべき医療提供体制の姿を示して、それと地域医療構想が結びつけばいいというものか。
 - ⇒ 広く地域医療のあり方について市のデザインを描くためのもの。調整会議と重複する部分は当然あるが、調整会議ではあまり議論されない部分についても、隙間を埋めて整合性を取れるようにしていきたい。あくまで基本計画のベースは県の保健医療計画である。
- 市は外部有識者検討会の議事録を公開している。きちんと医療を受ける側にも情報提供していくことが、この地域医療構想調整会議を上手く進めていくことに繋がると考える。